

【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名 小島 太郎

本研究は、高齢者の薬物有害作用とポリファーマシーとの関連につき検討した研究であり、下記の結果を得ている。

1. 東京大学医学部附属病院老年病科の高齢入院患者 1616 名における長期入院と関連する因子として、重回帰分析による多変量解析にて BMI 低値、ADL 低下、薬物有害作用の存在、疾患数の増加、さらに老年症候群の数、が入院日数の長期化と有意に関連したことを解析した。とりわけ薬物有害作用が長期入院と関連していることが明らかとなった。

2. 東京大学医学部附属病院老年病科の高齢入院患者 2412 名において、10.5%の患者に薬物有害作用が認められたが、薬剤数の増加が薬物有害作用のリスクとなっていることを多変量ロジスティック解析で明らかにし、ROC 曲線解析により薬剤数 6 種以上をカットオフ値として有意に薬物有害作用が増大したことを明らかにした。

3. 高齢外来患者 262 名に対する易転倒性に関する横断研究の結果、転倒の既往や 22 項目の転倒スコア、13 点満点の簡易転倒スコア、開眼片足立ち時間、の 4 つの易転倒性の指標がいずれも薬剤数と関連することを多変量解析により明らかにし、薬剤数の増加が易転倒性と関連することを明らかにした。

4. 高齢外来患者 165 名に対する 2 年間の縦断研究により、19.4%の患者に認めた転倒に認められたが、転倒を増大させるリスクとして、薬剤数の増加がリスクであることが多変量ロジスティック解析により認められた。さらに、ROC 曲線解析により薬剤数 5 種以上をカットオフ値として有意に転倒発症者が増大したことを明らかにした。

以上、本論文は高齢者がポリファーマシーの状態となることにより薬物有害作用が増大する懸念があることを明らかにしたが、本結果によって薬物総合評価調整管理料の策定につながったと推察されるなど、医療政策への影響のある重要な研究であり、学位の授与に値するものと考えられる。

【別紙 3】

試験の結果の要旨

氏名 小島 太郎

審査委員は、論文提出者に対し、学位請求論文の内容および関連事項について質問と討議を行い、本人の学識と提出論文を審査した。その結果、審査委員会全員より、平成 29 年 12 月 14 日に合格と判定した。

【別紙 4】

学力の確認の結果の要旨

氏名 小島 太郎

論文提出者は、外国語（英語）の試験に合格した。

審査委員 5 名は、論文提出者に対し、口頭による学力確認を行った結果、本大学院において博士課程を修了して学位を授与されるものと同等以上の学識と学力を有するものと認め、優の判定をした。